



**Q** 「いやいや」が多くなり、困っています。

**A** 少しだけ「待つ」気持ちでいたらどうでしょうか。

1歳3カ月から2歳ぐらいまでは、自我の芽生えの時期です。それまで親の言うことを素直に聞いていた子が、「だめ!」「いやだ、いやだ」と泣きわめいたりして、親を手こずらせるようになります。これは自分の意思が出てきた表れで、順調に成長している証拠です。

**Q** 「良い子育て」というのはありますか。

**A** 子供よりお母さんが機嫌よくいられば大丈夫でしょう。

● **自立心の表れ**  
1歳ぐらいの子供は、「自分でやりたい」気持ちはあるのに、実際は能力が追いついていません。親が手伝おうとすると拒んで「自分でやる」と言いながらもうまくできないので、癩癩を起したりするのです。  
「自分は母親とは違う意思を持った存在」だと、認識し始めた証拠ですから、大きな変化で

お母さんが怒ってばかりとか、食事を作らないなどというのは、誰が見てもまずい子育てですが、「上手な子育て」が果たしてあるのかは疑問です。相手(子供)は千差万別、親もいろいろですから、「これ」という便利な方法があるわけはありません。むしろお母さんが穏やかで元気なら、子供は心配しなくても育っていくのではないのでしょうか。

人は嬉しかったり悲しかったりすると、顔の表情に表れます。赤ちゃんは、いちばん身近にいるお母さんを見て、表情と感情の結びつきを学びます。お母さんが機嫌よく、穏やかにしていると、赤ちゃんも自然と楽しく過ごようになります。赤ちゃんがにこっと笑うと、お母さんも嬉しくなって、「楽しいね」と笑顔で応じることが出来ます。

こうした相互作用で、赤ちゃんは「楽しい」という感情を自覚し、お母さんと感情を共有します。赤ちゃんが悲しんでいるときに、お母さんも悲しい表情を見せると、共感の感情が生まれます。これが、心の発達に大切なのです。

ギョツとします。そして、必ずお母さんのほうを振り返ります。お母さんが「大丈夫よ」という表情を見ると、安心してネコに近づきます。「いい子、いい子しようね」とお母さんがネコを撫でると、教えてもらった対処の仕方を学ぶのです。

● **社会的共感ほぐぐむ**

赤ちゃんが人間関係の基本を学ぶのは、長い時間を一緒に過ごすお母さんからです。母子の絆ができると、赤ちゃんはお母さんの表情を見て行動を決めるようになります。

ハイハイしている赤ちゃんは、目の前で初めてネコを見たら

これが「社会的参照(他者への問い合わせ)」で、生後6カ月から2歳ぐらいに自然にはぐくまれます。こうした土台があると、幼稚園などの集団生活で、お約束事を教えられると守ることができるようになります。大人になって社会のルールを守り、それを誇りにする感性は、幼い心に芽生えるのです。

● **ワンポイント・アドバイス**

子供は思い通りにならないもの。「何で泣くの、笑うの」と夫婦の会話があると共有体験ができ、母親としてのゆとりが生まれます。

乳幼児は身近な人と関わり、遊びの実体験を通じて、人間関係や心身を発達させますが、メディアはそれらを奪い、成長に遅れや歪みを生じさせます。

**Q** テレビやビデオは見せないほうがいいのですか。  
**A** 小さいときこそ親子でしっかり肌を触れ合いましょう。

日本小児科医会は、テレビの内容がわかる「2歳になるまで見せてはいけない」と警告して

います。幼児の場合でも、映像が一方的に流れないように、親子で話しながら見るのがいいでしょう。